

水稻の生育状況と当面の対策

基本技術を励行して消費者に「おいしいお米」を届けよう!

http://www.pref.chiba.lg.jp/nourinsui/08seisan/nousan/suitou_seiku/index.html

第 4 報
千葉県農林水産部
平成20年7月3日

「コシヒカリ」の穂肥は慎重に!

[生育状況]

「ふさおとめ」は7月18日から出穂! (表1、2を参照)

6月下旬は、曇天の日が続き、気温は平年に比べ低く、日照時間も少なかったことから、「コシヒカリ」の幼穂形成期は、平年に比べやや遅く、4月20日植えでは6月26日、5月1日植えでは7月3日頃からとなっています。

生育状況については、全般的に茎数がやや多く、葉色はさめてきましたが、「コシヒカリ」は、平年に比べるとやや葉色が濃い状態にあり、穂肥の時期や量に注意が必要となります。

出穂期は「ふさおとめ」が7月18日、「ふさこがね」が7月20日、「コシヒカリ」については4月20日植えが7月23日頃、5月1日植えが7月28日頃からと予測されます。

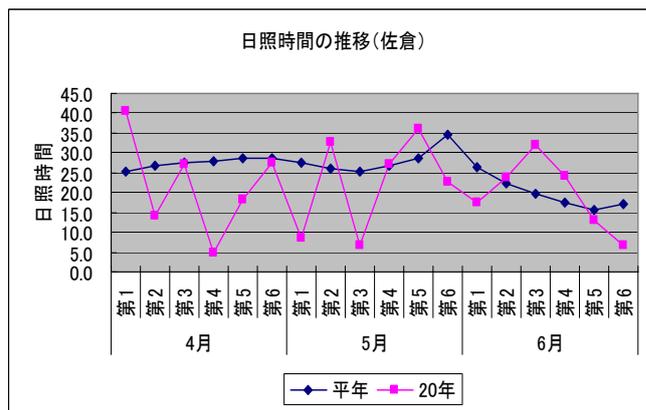
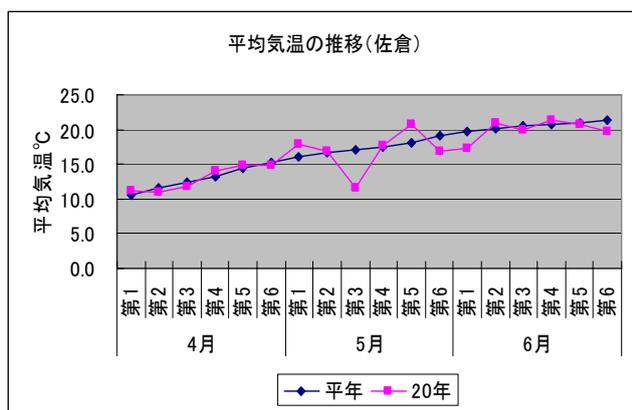


表1 コシヒカリの幼穂形成期の生育状況

品 種	植付時期	平年遅速	平 年 比		
			草丈	茎数	葉色
コシヒカリ	4月20日	やや遅	並	多	やや濃
	5月1日	やや遅	低	多	並

※ 平年比は過去5ヶ年(2003~2007年)平均値との比較です。

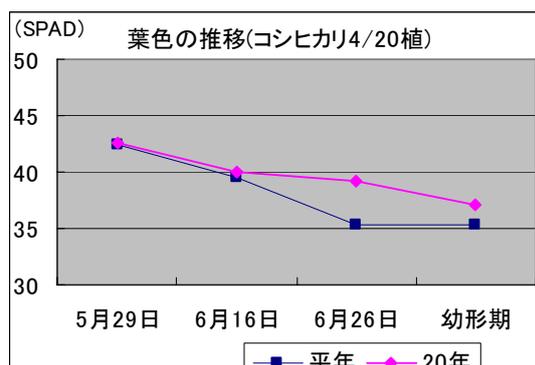
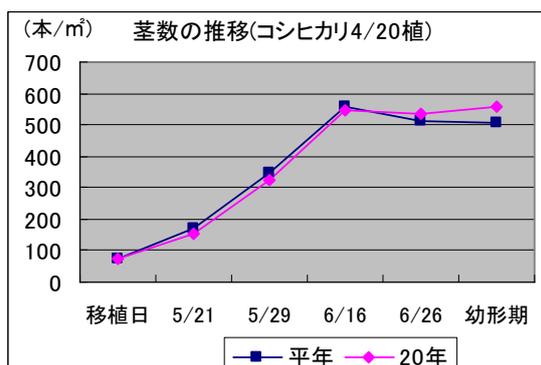


表2 品種別の出穂期と成熟期の予測

品種	植付時期	出穂期予測（月日）				成熟期予測（月日）
		県北	九十九里	内湾	県南	
ふさおとめ	4月20日	7月22日～	7月18日～	7月18日～	7月18日～	8月21日～
ふさこがね	4月20日	7月24日～	7月20日～	7月20日～	7月20日～	8月23日～
コシヒカリ	4月20日	7月28日～	7月26日～	7月23日～	7月23日～	8月29日～
	5月 1日	8月 3日～	8月1日～	7月28日～	7月28日～	9月 6日～

※ 「ふさおとめ」「コシヒカリ」はアメダスデータに基づく積算日最高気温及び幼穂形成期の実測値から、「ふさこがね」は幼穂形成期の実測値から、それぞれ推定した。

[これからの管理のポイント]

コシヒカリ

乳白米発生防止のために適切に穂肥を！（表1、3、4、5、6を参照）

乳白米は、籾数が過剰となり、出穂後に高温やフェーン現象、窒素栄養の不足などの条件に遭遇すると発生します。

今年は葉色と茎数がともに平年を上回っており、籾数が多くなりそうです。

穂肥は幼穂形成期のイネの姿（草丈、茎数、葉色）を十分観察し、生育に応じた穂肥を施用しましょう。

4月20日頃に植え付けられたものは、7月5日から穂肥の施用時期（幼穂長1cm、出穂18日前）を迎えますので、幼穂をよく観察し、表4、5に従って判断し、倒伏に注意した管理を行い、必要があれば倒伏軽減剤（表6）を使用しましょう。

表3 「コシヒカリ（4月20日頃植え）」の幼穂形成期頃調査における生育状況

	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉色 (SPAD値)	茎数×葉色
本年	65	559	37.2	21,000
目標値	70以下	430 ～560	29～37	16,000 ～20,000

※数値は作柄安定対策調査ほにおいて幼穂形成期を迎えた圃場4点の平均値

表4 幼穂形成期における「コシヒカリ」の穂肥・倒伏軽減剤の要否判定

葉色× 茎数/m ²	草丈(cm)	予測される生育・収量	対 策
16,000以下	70cm未満	倒伏は避けられるが、籾数が不足しやや減収となる。	穂肥の増量、または時期を2～3日早める。
16,000～ 20,000	70cm未満	穂肥施用により目標通りの生育が期待できる。	出穂前18日に、標準量の穂肥を施用する。
16,000～ 20,000	70～80cm	穂肥施用による籾数確保は必要だが、穂肥施用によって稈長が伸び、倒伏が心配される。	穂肥と倒伏軽減剤を組み合わせる。
20,000～ 27,000	75cm未満	穂肥施用による倒伏の心配は少ないが、籾数過剰となり、乳白米の発生が心配される。	穂肥の施用量を減らす(窒素1～2kg/10a)か、時期を遅らせる。
20,000～ 27,000	75～82cm	穂肥施用により籾数過剰となる。穂肥を施用しなくても稈長が伸びすぎて倒伏が心配される。	穂肥は施用せず、倒伏軽減剤のみ施用する。

※ 葉色はSPAD値

表5 幼穂形成期の生育目標(カラスケールによる葉色測定)

草丈(cm)	茎数(本/m ²)	葉色(カラスケール)
70以下	430～560	3.5～4.0

※ 上記のような生育であれば、穂肥が標準的に施用できます。

表6 主な倒伏軽減剤

薬 剤 名	使用時期(使用回数)	10a 当たり 散布量	処理方法
ロミカ粒剤	出穂25～10日前(1回)	2～3kg	湛水散布
スマレクト粒剤	出穂20～7日前(1回)	2～3kg	湛水散布
ビビフルフロアブル	出穂10～2日前(1回)	75～100ml	茎葉散布

品種共通

天候に応じた水管理を！

幼穂形成期以降の水管理は、収量や品質に大きく影響するので、間断かんがいを基本に実施しましょう。

○高温乾燥時には、水張りを！(表2を参照)

早生品種はまもなく出穂期を迎えます。「乳白米」の発生は、出穂後15日頃までの高温(平均気温28℃以上)や乾燥風によって増加することが報告されていますので、このような場合には、水を張り、地温を下げましょう。

○低温になったら深水かんがいを！(表7を参照)

「コシヒカリ」が冷害危険期に入っています。平均気温が20℃以下の日が続く場合には、幼穂を保護するために深水かんがいを行いましょう。

表7 「コシヒカリ」冷害危険期

品種	植付時期	冷害危険期（下記日から8日間）			
		県北	九十九里	内湾	県南
コシヒカリ	4月20日	7月14日～	7月12日～	7月8日～	7月8日～
	5月1日	7月19日～	7月17日～	7月13日～	7月13日～

カメムシ類の防除を！早生品種はまもなく出穂！（表2、8を参照）

出穂期は「ふさおとめ」が7月18日頃から、「ふさこがね」が7月20日頃からと予測されま
す（表2を参照）。

カメムシ類の成虫は出穂期頃一斉に水田へ侵入した後、産卵します。「斑点米」は、成虫よりも
幼虫による加害が大きく、乳熟期～糊熟期に吸汁されると発生します。

出穂が早い水田では特に被害を受けやすいので次のことに気をつけましょう。

- ①イネの出穂15日前までに、水田周辺の雑草を刈り取っておきましょう。
- ②穂揃期に飛来する成虫が多いときは薬剤散布を行います。また、出穂後15日頃に幼虫が多
い場合も再度薬剤散布を行いましょう（表8を参照）。
- ③薬剤の散布にあたっては、収穫前使用日数に十分注意して適正に防除しましょう。
- ④使用に際しては、他の作物等に飛散しないように十分注意しましょう。

※ 近年は小型のカスミカメムシ類が多くみられるようになってきています。薬剤散布は、水田
への飛来成虫を対象に穂揃期頃に行いましょう。

表8 カメムシ類の主な防除薬剤

薬 剤 名	使 用 時 期（使用回数）	10a当たり散布量
エルサン粉剤 3DL	収穫7日前まで（3回以内）	3～4kg
トレボン粉剤 DL	収穫7日前まで（3回以内）	3～4kg
MR. ジョーカー粉剤 DL	収穫7日前まで（2回以内）	3～4kg
ベストガード粉剤 DL	収穫14日前まで（4回以内）	4kg
スタークル粒剤	収穫7日前まで（3回以内）	3kg

穂いもち・紋枯病の防除！（表9を参照）

○「葉いもち」の発生が認められている場合は防除を！

「穂いもち」に感染すると収量・品質に大きく影響します。

「穂いもち」は出穂時に感染するので、「葉いもち」の発生が認められるほ場では、出穂前に薬
剤散布を行い、感染を防止しましょう。

○「紋枯病」は予防防除を！

気温が高いと「紋枯病」が発生しやすくなります。本病による葉鞘の枯れ上がりは稈を弱くし、
倒伏につながります。

ほ場の周辺部をよく観察し、被害が広がらないよう早めに防除しましょう。

表9 「紋枯病」の防除薬剤

作用特性	薬剤名	使用時期（使用回数）	10a当たり散布量
予防・治療	モンカット粒剤	出穂30～10日前（3回以内） （収穫45日前まで）	3～4kg
予防・治療	リンバー粒剤	収穫30日前（2回以内）	3～4kg
予防・治療	バシタック粉剤(含DL)	収穫14日前まで（3回以内）	3～4kg
予防・治療	モンガード粉剤DL	収穫14日前まで（3回以内）	3～4kg
治療	バリダシン粉剤(含DL)	収穫14日前まで	3～4kg

※予防：病害が予想される圃場に施用する 治療：病害が発生したごく初期に施用する

※いもち病防除薬剤については第3報を参照のこと。

農薬は他の作物等に飛散しないように気をつけて散布しましょう

台風に備えよう！

いよいよ台風など大雨シーズンを迎えます。あらかじめ次のような準備しておきましょう。

- ① 長期間の冠水を防ぐため、早急な排水が行えるよう準備しましょう。
- ② 台風通過後の乾燥風は急性萎ちょう症の発生や玄米品質の低下を引き起こすことがあるので、必ず湛水できるよう準備しましょう。
- ③ 白葉枯病の常発地では、浸冠水した場合に備え、防除ができるようにしましょう。



ふさがね 7月3日 千葉市緑区刈田子町